



本会の活動は「赤い羽根共同募金」の助成を受けて運営しています。



# いっぷく会便り



〈10月号〉 令和5年10月1日 発行

KHJ 静岡県いっぷく会 (NPO 法人全国ひきこもり家族会連合会の静岡県支部)

会長 中村 彰男

「いっぷく会」のホームページ <http://ippukukai.com>

## 9月例会のご報告

9月例会は、9月10日(日) 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」で開催しました。

## ◇連続学習会

13時15分～16時30分 参加者21 家族22名(内初参加1名)(他に市のサポーターなど6名)

### 『家族の発表会』



今月の学習会を「家族の発表会」という企画にした背景には4月に行った「みんなで話し合い～拡大版」の反響が良かったことが要因となっています。

4月の企画の発端は、毎月の「みんなで話し合い」をグループでなく全員で聴いて共有し合えたらいいのではないかと、という事と、スタッフ側の悩みもこの際ぶっちゃけて皆さんに聞いてもらったらどうか、というところから始まりました。終わってみれば思ったより皆さんが発言して下さり、スタッフ側の悩みにもアドバイスを頂けたことは、やって良かったね、という結論になりました。そこから、学習会も回を重ねる中で、会員さんの声として、「講義の中で具体的な事例をもっと入れてほしい」という趣旨のものが目立つようになってきました。講師にその要望を伝えることも大事ですが、周りには経験豊富な会員さんたちがいらっしゃるわけですから、その経験を言い伝えて残してゆくことも会としての仕事ではないかと考えました。そして、発表者候補を会議の中で数名選び交渉してみましたが、いろいろな事情があって実現できず、候補者選びは難航しました。そうこうしているうちに、ある会員さんのお知り合いの方で話が出来るような方がいるという紹介を頂き、それならば、その方を含め、経験者から言い伝える進行で全体で話し合うという形式に改めました。

そして「家族の発表会」が始まりました。

まず、共通して言えることは、親として「ひきこもりという状況に関わらざるを得なくなった」という事です。今ここに集まっている人たちは、いっぷく会に来ているわけですから、これまで年数の違いはあれ、学習会で学んできた人たちです。

初めて学んだ頃の話、そして、だんだん「気づいていく」過程、「子どもの変化」それから「親自身を見つめなおす時期」など、それぞれの体験の中で、失敗した事もあれば、またそこから「気づいて」やり直した日々など、多くの方々が「発表」してくれました。

皆さん、勇気がいったと思いますが、会場の雰囲気がほぐれにつれて、口調も滑らかになり、愚痴も加わり、笑い声も大きくなり、和やかな「発表会」で終わりました。

今回、皆さんが話されたエピソードを記事にすることは致しません。

個人情報観点もありますが、何より、参加された皆さんが、今回会場で感じたこと、一緒に集えたこと、会場の熱量、各個人の話し方、それぞれが「会話の現場」に遭遇したことが大事だと思っています。

次はどんな企画にしようか楽しみにしています。

皆さんからも企画を募集しますのでどしどしお寄せください。

「いっぷく会」は皆さんで作っていく会です。よろしくお願ひします。

(スタッフ)

## 11月例会のお知らせ

日時：令和5年11月12日（日） 13:15 ～ 16:30（受付 13:00～）

会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」多目的実習室

連続学習会テーマ：「ひきこもりを振り返る」

講師：静岡県精神保健福祉センター 所長 内田 勝久氏

尚、当日は10時より同場所で準備会を行っています。配布物の準備やら、話し合いを行ったりしていますので是非お出かけ下さい。例会時とは一味違った雰囲気、気軽な話もできます。皆さんの参加をお待ちしています。

・会場の都合で、オンライン(Zoom)での配信はできませんのでご了承下さい。

受付当番： ■富士市以東 □静岡市駿河区、清水区 □静岡市葵区 □藤枝・焼津以西

### 令和5年度連続学習会予定（12月～3月）

12	10	番町大会議室	人間関係と心の相談舎 代表 菊池 恒氏	ひきこもり対応の阻害要素
1	14	あざれあ第2研修室	ヒューマン・スタジオ 代表 丸山 康彦氏	持続可能な支援目標「SSGs」 ～長期対応を可能にするための提案
2	11	番町大会議室	静岡県内地域支援団体	ひきこもり地域支援情報のいろいろ～ 家族との繋がり
3	10	番町大会議室	静岡県公認心理師協会 久保伸年氏	家族にとっての精神科

## お知らせコーナー

（次回例会までの予定など）

### ・地区会・相談会の案内

#### ◇会員交流の場「地区会」

- ・西部地区 10月21日（土）13:30～16:30（参加心理士）鈴木 梓氏  
藤枝市文化センター 第4会議室（相談会と同一会場です）
- ・東部地区 10月22日（日）13:30～16:30（参加心理士）藤崎なほみ氏  
富士駅北まちづくりセンター 調理室

#### ◇臨床心理士による「相談会」 ～無料～

- ・中部地区 10月14日（土）時間1回目13:30～2回目15:00～  
静岡総合福祉会館「シズウェル」2階ボランティアビューロー  
（担当心理士）江口昌克氏 波多野実徳氏
- ・西部地区 10月21日（土）時間1回目9:30～2回目11:00～  
藤枝市文化センター第4会議室（担当心理士）鈴木 梓氏

（予約制）お申し込み、お問い合わせはお電話で 事務局 Tel 090-6081-0766

## 地区会のご報告

中部地区 (9月2日 番町小会議室)

会員3名、臨床心理士会から2名の方の参加でした。  
A型B型に通い始めたというお話も聞くようになりました。  
今日はそんな話を聞きながらの報告です。

当事者の年齢が高くなってくると結局8050問題に話が進みます。  
長い間、外(社会)との関りが無い状態が続いていると一般就労は無理なので、親としては何とか障害者枠での就労(A型B型等)を考えていきたいが、本人はどう考えているのだろうか。A型B型就労を考えると、診断名も必要になるので、精神科医とのかかわり方も気になる。そんな話を何時、どのように本人に話したらよいのだろうか。  
結局はそんな話題が話せるような親子関係をつくるのが一番大変だったりして・・・。  
思いは尽きない話になりました。

自分の家の状況は積極的には話したくないが、他の家庭の話は聞きたいという会員さんは多いのではないかと思います。地区会に来ると、自分の話をしなくてはいけないと思いついていませんか？  
話したくない人は話さなくても良いと思います。  
参加している人の話を聞き、自分の家庭と共通した事柄が出てくると思わず「うちもそうです」なんて言うことがあるかも知れません。何人かの人がその話題について思いを伝えると、その話がより深くなっていくという展開もあります。  
どうぞ皆さん地区会にお出かけください。

## スマホ教室の紹介



いっぷく会の準備会で、スマホの話題が出て、色々な機能があるのにほとんど使いこなしていないじゃないの、これではもったいないから誰か詳しい人に教えに来てもらったらとなりました。たまたま、番町で、シニアを対象にスマホを教えられている方がいることを知り、例会の場で“スマホあれこれ”をお話しして頂けることとなりました。松村雅代先生です。

自己紹介に始まり、スマートフォンとは、ワイハイとは、スマートフォン基本操作、LINEとは・・・などの説明を受けました。

そして、松村先生がやられているスマホ教室の紹介を頂きました。

初心者コース、中級者コース、上級者コースなど、その人に合った教え方をされているようです。

詳しくは下記にお問い合わせください。

スマホサポート担当：松村雅代 090-3207-9322 cyclamen.1888@gmail.com

## ・奥山さんと柘田先生の思い出

いっぷく会に在籍して20年を超えるようになりましたが、まさかこのような長きにわたるとも思いませんでした。

初参加は確か講演会だったと思いますが、私たちは夫婦で参加し、会場には多くの方々が参加されていて、そこで対応していただいた方の暖かさもあって次回も来てみようという気になりました。

お話を伺っているうちにこの家族会は奥山雅久さんという方が全国を行脚し、ひきこもり家族会の必要性を説き続け各地に家族会が誕生したものだという事がわかりました。

いっぷく会も奥山氏の来静で集まった人たちを中心に2002年5月に誕生したそうです。

私が参加したのは誕生からおよそ2年位が経っていたと思います。

その後の講演会で伝説の奥山氏と出会うことになりました。

奥山氏は全身をがんで侵され足も不自由で杖を突いて歩きながらの登場でした。

しかし、その風貌は小柄ながら眼光鋭く、顎髭を生やし、発する言葉は熱を帯び、「みんなで頑張りましょう」と握手をして回り、人を引き付けるオーラがありました。

私もその後、いっぷく会の運営に関わるようになり今日に至りますが、奥山さんの情熱は会の運営の困難さを乗り越えていく源となって今も私の心の支えになっています。

そしてもう一人、私にとって子どもとのひきこもり対応で学んできた中で忘れられない講師がいます。

それはSCSカウンセリング研究所の代表（当時）であった柘田宏子先生です。

初めて講師として対面した時の印象も忘れられません。

スラッと背が高く背筋が伸びて颯爽としていました。そして金髪でした。若くはないのに。

学習会の初めは、先生が会員の席を眺めて、「顔なじみの方もいらっしゃいますね、続けていくことが大事なんですよ。」という言葉から始まります。

「連続学習会」の「連続」は困難なひきこもりの対応はあきらめず、続けていくことが何よりも大切なこと、という意味を含んでいます。

柘田先生は、家族が子供への対応で「こんなことをやってみました」と報告すると、にこにこして、「良かったですねー」「頑張ってますねー」と褒めてくれます。

褒められると元気が出ます。先生は大きな心で私たちを受け止めていてくれました。

今思えば、それは、私たち親がひきこもる子供で、先生が親だったのです。

しかし、残念なことに柘田先生はもうここにはいません。

今年の8月31日にこの世を去りました。

奥山さんと柘田先生。お二人が残してくれた思い出は、会の運営や、親として取り組みに生かしているものと信じています。

ありがとうございます。

(柴田)



ガーベラ

いっぷく会は、会員制で会員の会費で運営されています。会員以外の方もご参加されることは大いに歓迎していますが、その場合は参加費を一回1500円負担して頂いています。ただし初回は体験として無料で参加いただけます。そして年会費8000円（年度途中での加入は月割額700円）で、加入していただければその後の参加費は無料です。詳しくは事務局まで問い合わせ下さい。

事務局 電話 090-6081-0766 E-mail : ippuku-kai@outlook.jp